

# ALL JAPAN RALLY CHAMPIONSHIP REPORT

開催日時 2016年4月8日(金)～10日(日)  
 開催場所 佐賀県唐津市周辺  
 大会名称 2016年JAF全日本ラリー選手権第1戦 ツール・ド・九州2016 in 唐津 Supported by Sammy  
 順位 総合2位 シリーズランキング2位(18pt)

## 2016年全日本ラリーシリーズが開幕

2016年シーズンの開幕となるJAF全日本ラリー選手権第1戦は、4月8日佐賀県唐津市の唐津市東港埠頭駐車場サービスパーク起点として14区間のスペシャルステージ約69kmを含む総距離約315kmのラリーが開催された。恒例となっているセレモニアルスタートでは、唐津神社へ出場選手全員が集まり交通安全の祈願を行い、多くのギャラリーが見守る中スタートされた。そのほか、クラス区分変更や使用タイヤのレギュレーション変更など新たに導入された規定での初開催ということで、2016年を占ううえで注目の開幕戦となった。



### 【DAY 1】

木曜日のレッキでは雨の影響で路面には落ち葉が散乱しスリッピーなコンディションを予想していたが、本番当日までに路面は乾き落ち葉の影響も少ない。オープニングのSS1はこのラリーを占ううえで重要なロングSS三方、スタートからマシンとタイヤのマッチングに違和感を感じる。その後のSSでもサスペンション減衰力を調整して走行したが思ったようにタイムが上がらずセクション1を4位で折り返した。サービスにてセッティングを大幅に変更。午後からのステージではフィーリングが好転し3位にてDAY1をフィニッシュした。



### 【DAY 2】

DAY2は距離こそ28kmと短いもののロングステージのSS9、13の陣の山は下り主体でマシンやタイヤに厳しいステージがある。前日2位の福永選手との差は14.9秒だったので、ロングステージではタイヤを温存しながらショートステージでタイムを稼ぐ作戦。セッティングも前日のデータを元にEDFCアクティブプロでステージ毎にアジャストしながら走行。ステージごとに福永選手とのギャップを詰めSS13にて逆転、最終のSS14もベストタイムで締めくり2位にてフィニッシュした



### 【Technical Report】

2016年シリーズはタイヤ規定が変わりSタイヤが使用禁止となった。そのためダンロップは縦溝が2本以上という規定に沿ったDIREZZA β02を発売。結果的にはライバルのアドバン勢はタイヤ制作が間に合わず一般ラジアルタイヤでの走行だったのでダンロップユーザーでの戦いとなった。WRX STIでのデビューイヤーとなった昨年は思うように結果が残せなかったが、チームは昨年のデータを元にマシンを大幅に進化させて開幕戦を迎え、ドライバーもターマックでのドライビングを研究し、ドライビングスタイル変えて挑んだ開幕戦だった。結果的にはライバルとのタイム差は大幅に短縮でき確かな進化を確認できた。また、まだまだ進化できる部分も確認できたので、次戦の久万高原ラリーまでにマシンを改良する予定である。



SUBARU

